

リーマンショックから5年 希望の年に！



社長会会長 篠崎社長

2008年のリーマンショックから5年、東日本大震災から2年半が経過しました。以来世界の政治経済は混乱が続き、強烈な円高も我々の事業を直撃しました。

しかし昨年の末より政権も変わり金融政策も変わり、いよいよ日本経済も復活・再生を予感させるようになって来ました。為替は円安に、そして株高に向かってきています。2020年のオリンピックも東京での開催が決まりました。この5年間で大きく変わったことは、市況のアップダウンが一段と過激に、しかもス

ピードが速い。またグローバル化の益々の進展があります。好むと好まざるとにかかわらず競争はまさに世界競争の時代です。国内市場が縮小する中、グローバルで勝てる技術力、営業力を何としても強めていく必要があります。そして顧客や市場を出来る限り分散させて市況の激変に対処しておく。そしていよいよ我々にチャンス到来と前向きに考えていきたいものです。

グローバル化は単に海外に進出するだけが全てではないように思います。あらゆる情報が一瞬に伝えられるいま、最適などところで調達をし、最適などところで生産したものを全世界に向けて売る。それができる特徴商品を作ることが最も重要です。

私は優れた特徴商品は日本で作る。論理に裏づけかれた技術力に心、魂を込める。日本の優れた企業文化を製品に練り込んでいく。これからの市

場のニーズは一つひとつの装置や機械ではなく、装置と装置を組み合わせたシステムに移る。部品を組み合えば作れる商品、装置を並べれば作れる製品は新興国でもどこでもできる。これからのハイテクはお客様のニーズを掴んだベテラン技術者、営業、そして生産現場とのすりあわせからしか生まれない。この領域で勝負しない限り

り、韓国や台湾、中国との競争には勝てないという事ではないでしょうか。

わが分社グループは優れた特徴を持った会社ばかりです。この5年間の苦労と努力を、今年こそ会社の復活・再生に繋げ、希望ある新しい発展への軌道に乗せて行く、節目の年にしたいと思えます。

第37号

分社

分社グループ会報

《発行元》
分社理念研究所 事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田8丁目
11番21号五反田TRビル
TEL 03-5496-1810
FAX 03-5496-1881

分社グループ 社長会開催



平成25年9月12日(木)
コートヤード・マリオット
銀座東武ホテルにおいて
分社グループ社長会が開催されました。篠崎会長の開会の挨拶に引き続き、事務局よりグループ各社業績推移報告(8月実績、上期実績見込み)、提出物をお願い(別記)について連絡がなされました。また、フアナックマグトロニクス株式会社からは

【提出物のお願い】

平成25年度上期終了にともない分社理念研究所事務局まで以下の書類のご提出をお願い致します。

- ✓ 上期決算書
- ✓ B/S、P/L、製造原価明細書
- ✓ 借入金残高明細書(9月末)
- ✓ 上期実績・下期修正計画
- ✓ 資金繰り表

社名変更の報告、フォレスト総合ケア株式会社からは、携帯電話の料金割引に関するサービスの案内がなされました。最後に酒井代表より挨拶があり、東京オリンピック開催が決定した際の、プレゼンテーションを例に挙げ、それぞれの立場で役割をしっかりとこなすことの重要性について話がなされ社長会は閉会しました。

社長会勉強会



みずほ総合研究所副理事長
杉浦哲郎氏

みずほ総合研究所副理事長の杉浦哲郎氏を講師にお迎えし、「景気回復はこのまま続くのか」ということをテーマとした勉強会が開催されました。

講話の中では、国内における今年度下期の景気動向については、2014年4月からの消費税率引上げに伴う駆け込み需要の発生が予測でき、企業の業績は良くなる

見通しとのお話がありました。また、その反動として来年度上期の見通しが不透明になっているとのことでした。

2020年に開催が決まった東京オリンピックの経済効果については識者の間でも諸説ありますが、数兆円程度であり、世の中に与える影響は心理的な面が大きいのではないかと話がありました。

その他、海外の動向については、鈍化の兆しがあるとも言われる中国経済や東南アジアの動向と、ドイツの中小企業で業績を上げている企業の特徴についての説明があり、90分間にわたって、大変参考になるお話をいただき、理解を深めました。

11 社会



木村副代表による説明

平成25年9月12日(木) 11社会が開催され木村澄夫グループ副代表から「簿記の基本」「資金繰り表による資産管理」についての勉強会が行われました。今回の勉強会では、特に経営計画から資金繰り表の作成を経てバランスシートにどのように反映させていくかについて具体的な事例をもとに説明がなされました。日常の業務で行つ

ている財務諸表作成の流れを改めて見直すことで、業績に現れる数値と実際の業務の動きの関係についての理解を深めました。また、バランスシートの分析の仕方についても基本的な解説がなされ、簿記の基本や資金繰り表について見直す機会となりました。

約1時間の勉強会となりましたが、多くの内容を見直す勉強会となりました。



事務局からご案内



分科会開催のお知らせ

分社理念研究所では、来る11月15日(金)に、分科会「総務・労務人材部会」『営業力強化セミナー』を開催いたします。今回は、PDCAを効率的に活用した営業力強化をテーマに、外部から講師を招き、1日間の研修を行います。グループ各社よりたくさんのお申込みをいただきありがとうございました。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

分社理念研究所事務局

社名変更のお知らせ

下記の通り、10月1日より社名変更がございましたのでお知らせします。

【旧社名】

ファナックマグトロニクス株式会社

【新社名】

株式会社マグトロニクス



展示会出展

株式会社富士コスモサイエンス

第76回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2013 (東京ビッグサイト)



富士コスモサイエンスからは、好奇心や探究心を刺激する自然科学に関するさまざまな工作キットなどが展示され、多くの人の興味を引きつけました。

大陽工業株式会社

CEATEC JAPAN 2013 シーテック ジャパン 2013 (幕張メッセ)



大陽工業からは大電流基板・高放熱基板など特殊基板を主とした展示とオープンセミナーによる技術の紹介とソリューションの提案が発表されました。

海外ビジネス特集

大陽工業株式会社

「我が社の海外ビジネス展開」

当社は、2012年8月に台北に台湾大陽工業を設立致しました。目的としては、台湾の基板メーカー2社と業務提携を結び、国内の安価基板に対する対応策として、海外調達を推進をすることです。現地には、QDCのコントロール役として1名を派遣しております。

現在は、全てOUT-INの形態を取っておりますが、当社のお客様も海外生産にシフトしている先が多く、今期中には、OUT-OUTの対応が出来る体制を構築する予定です。

今後の展開に関しましては、プリント基板の国内の需要は年々減少しており、当社が強みとしている、大電流基板、放熱基板といった特殊基板をコアとして、海外メーカーへの売り込みを計画しております。当社としては初めての試みで、現在その体制作りを行っており、海外のマーケティング及び販売方法を計画的に進める為に、今期より語学堪能者の採用と、海外で活躍されていた人材1名を顧問契約致しました。人材に関しては、今後も計画的に採用していき、早急に海外営業としての立ち上げを行い、受注拡大を図って行きます。

【台湾大陽工業事務所：役員会議の様相】



【量産対応】

【中量～量産対応】

業務提携メーカー



敬鵬工業



高技企業

株式会社マグトロニクス

「我が社の海外ビジネス展開」

我が社の協力工場であるフューチャー・マニュファクチャリング株式会社(Future Manufacturing Co.,Ltd. 以下FMC)は、タイ王国のバンコク市から北へ50kmにあるパトゥンタニ県に所在しています。主なビジネス内容は、タイへ進出している日系工作機械・産業機器・自動車メーカーへの製造受託サービス(制御盤、操作盤、ケーブル・ハーネスの受託製造)、および機能追加、改造工事、部品調達代行などのサポートを提供しています。

近年多くの大手メーカーが海外での生産を増強する方向にあり、それに伴い機械メーカーがビジネス・チャンスを求め海外工場を立ち上げております。当社のお客様も特に自動車産業が盛んなタイへの進出が増えておりました。当初は当社が製作した製品をお客様が現地へ輸出しておりましたが、現地調達化推進により、海外においても日本と同様のサポートを提供して欲しいとの要望が高まり、FMCを立ち上げました。

お客様にて予めタイにて生産することが決まっている機種は、マグトロニクスとFMCが連携して設計段階から関わらせて頂き、タイで入手可能な部品の選定・置き換えや、現地での製造がスムーズに進むような図面展開など様々な提案・ノウハウの提供を行っています。またマグトロニクスではタイ研修生を積極的に受け入れて(現在3期生)将来のお客様のサポート要求の高度化へ対応できるようにトレーニングしています。マザー工場として位置づけられる日本の本社工場への技術サポート、試作機、高機能機種などの少量多品種機器の製造受託から現地量産工場までの一貫したサポートでお客様のグローバル展開を支援しています。



上段左から3人目 西 宏マネージングディレクタ



「海外ネットワーク」

外貨建てでの売上が、当社全体の売上の4分の1を超えるようになりました。為替相場の変動が当社の収益を大きく左右するようになりました。

競合他社が中国を始めとした海外へ積極進出をしていく中で、日本でしかできない高度な技術を駆使した製品を愚直に作り続けてきましたが、それに加え、お客様の多様なニーズに応えるため、海外戦略も重要な位置づけとして展開しています。

製造関連の海外拠点としては、フィリピンにLINEARWORKS CORP.（以下リニアワークス）、中国にDAISHO MICROLINE LTD.（以下DML）があります。

リニアワークスは2004年に設計部門の子会社として設立しました。

CAD設計に加え、2008年に新工場を設立し、栃木工場からパッケージ基板検査部門の一部を移行しました。社員数は本年9月末日現在で123名となっています。社員の大半は栃木、岩手の両工場で研修を経験しており、現在も40名あまりの社員が日本で研修中です。

DMLは、中国で車載や通信機器を主体とした多層プリント配線板を生産しています。香港の株式市場に上場し、当社と資本提携をしており、当社の中国での主力工場の位置づけです。

販売部門の海外拠点としては、アメリカのロスアンゼルスにDAISHO DENSHI AMERICA, INC.（以下DDA）、香港にDAISHO DENSHI (H.K.) LTD.（以下DDH）があります。

DDAはロスアンゼルスを拠点とし、シリコンバレーを始め、世界最先端の電子部品マーケットの動向、技術を先取りし、販売活動を行っております。

DDHは東南アジア諸国との販売拠点の橋渡し役と位置づけ、販売・仕入れ活動を行うと同時に、DMLの製品検査を一部行っています。

その他、韓国、中国の基板メーカーと技術提携や業務提携を行い、お客様のニーズにお応えできる体制を整えております。



リニアワークス検査工場



リニアワークスでの検査風景



DDH、事務所内の様子

株式会社 ダイチュー テクノロジーズ

「我が社の海外ビジネス展開」

大忠香港はダイチューテクノロジーズの海外生産・海外部品調達を担う子会社です。香港を拠点に中国、フィリピン、タイなどで部品生産から完成品組立、物流まで含めたサプライチェーンを確立し、製品のインテグレーション(一貫生産)を行うグローバル企業として活動しております。海外生産は、安くて当たり前だが、品質と納期確保が難しく、なかなかうまく行かないイメージを持っている方が大半だと思います。

確かに言葉の壁、文化の違いは障害になる場合が多く、簡単にいかないことが多々あります。私は、海外でのモットーとして5つの“あ”を心がけて対応しております。(あせらない、あきらめない、あたまにこない、あてにしない、あまやかさない)生産管理、品質管理等々、立派な管理システムを持っていても担当者が変わると継続的な管理が出来ないことが多いのも事実です。明確な判断基準を持ち、実際に行動した結果を検証し、間違いがあったら即座に軌道修正を確実に実施することが重要です。ちょっと前？に流行った言葉じゃありませんが“今でしょう”が直ぐできる、これが大忠香港です。

現在の中国状況は、最低賃金高騰、昨年の反日運動からリスク回避(China+1)で日系各企業がASEAN各国へと生産移管を始めています。弊社に於いても同様で中国での活動をメインにしてはいましたが、一昨年よりフィリピンでの活動を復活し、中国と同様の環境作りを行い、中国・フィリピンどちらでも対応できる体制を築いております。今後は、更にタイ・ベトナム等を開拓していく予定です。いかにリスクを減らし、効率良く、品質を確保し、継続出来るかが海外活動のポイントです。分社グループの皆様、弊社にてお手伝いできることがありましたら、是非私までご連絡ください。できる限りの対応をさせていただきます。

分社グループ皆様の益々のご発展をご期待申し上げます。

大忠香港有限公司 総経理 阿部 義典



HDD試験装置初出荷



フィリピンでの初出荷